

# 令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川東中学校

## はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

## <全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

### 1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

### 3 調査実施日

令和4年4月19日(火)

#### 4 調査の内容

(国語、数学、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校調査は、国語、数学、理科とする。</li> <li>・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li> <li>② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容</li> </ul> </li> <li>・ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。</li> </ul>	
	【中学校 国語・数学・理科 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など  <b>【20分程度】</b>	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

### 本校の調査結果の概況

#### 中学校

＜教科に関する調査＞   は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	6	69.6	72.2	72.2
情報の扱い方に関する事項	1	40.5	48.3	46.5
我が国の言語文化に関する事項	3	72.8	71.6	70.2
話すこと・聞くこと	3	58.2	64.3	63.9
書くこと	1	40.5	48.3	46.5
読むこと	2	67.9	69.2	67.9

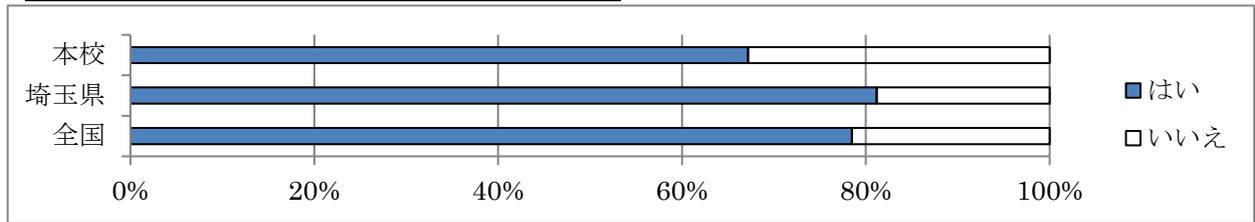
数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	56.3	56.9	57.4
図形	3	42.7	44.2	43.6
関数	3	37.1	44.3	43.6
データの活用	3	58.9	58.2	57.1

理科				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
「エネルギー」を柱とする領域	6	38.0	41.1	41.9
「粒子」を柱とする領域	5	48.2	50.5	50.9
「生命」を柱とする領域	5	57.3	57.9	57.9
「地球」を柱とする領域	6	39.3	44.1	44.3

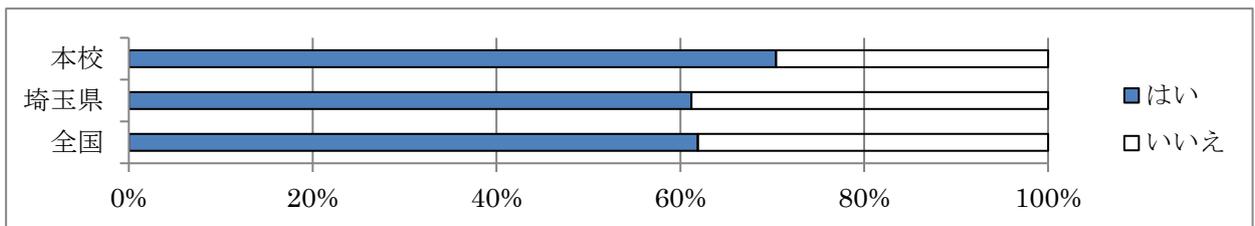
＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う  
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

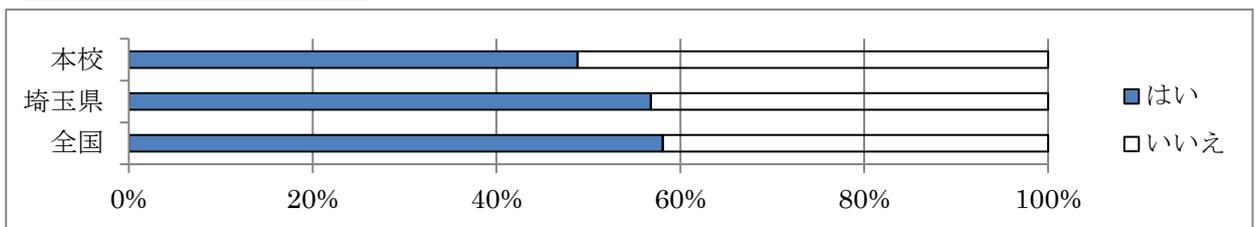
自分には良いところがあると思いますか。



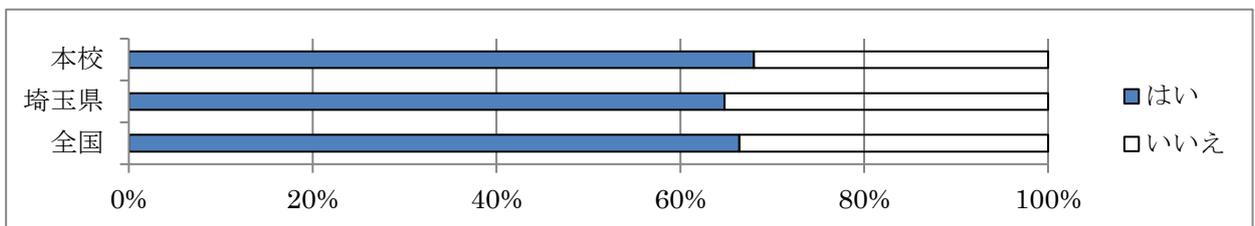
国語の勉強は好きですか。



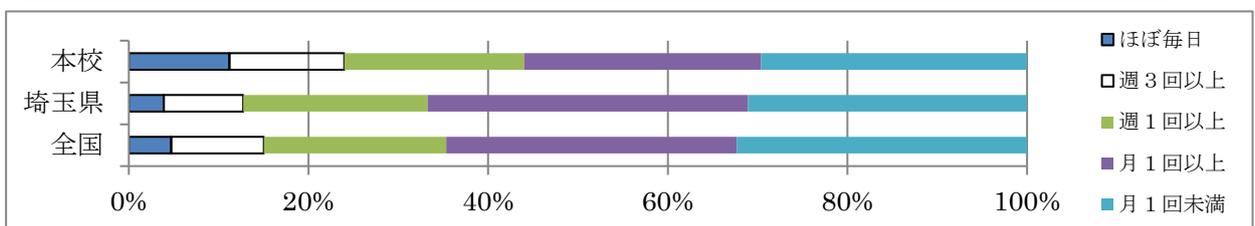
数学の勉強は好きですか。



理科の勉強は好きですか。



学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT 機器を、どの程度使っていますか。



# 本校の調査結果の分析・考察

## <国 語>

### 【領域別】

知識及び技能において、我が国の言語文化に関する事項では、県平均正答率、全国平均正答率を上回った。しかし、その他の項目では、県平均正答率、全国平均正答率と同じか、下回る結果となった。

・領域別では平均正答率、全国平均正答率と同じか、下回る結果となったが、問題別だと、14問中7問が県平均正答率、全国平均正答率を上回る結果となっている。

・できなかった問題を見てみると、県平均正答率、全国平均正答率を大きく下回る結果となっており、これが、領域別全体の正答率の低さにつながっていると考えられる。

### 【問題（例）】

#### 問題 2二①

一線部の漢字を書く（除く）

正答 のぞく

#### 問題 4二

【最初に書いた文字】について、青山さんは「漢字のバランスが悪い」と述べていますが、その具体的な内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から1つ選び答えなさい。

正答 4「希」と「望」について行の中心がずれている

<正答率>	2二①	4二
本 校	84.9%	93.7%
埼玉県	82.6%	91.3%
全 国	82.1%	90.1%

### 【効果があった取組】

- ・漢字の小テストの実施。
- ・每学期書写の教科書を活用した授業。
- ・ICTを活用したフラッシュカードによる復習。
- ・単元を貫く言語活動を通して、生徒の主体的に学ぶ姿勢・意欲の向上。
- ・生徒が取り組んだ課題に対する評価。

### 【問題（例）】

#### 問題 1三

【2人の会話の一部】に「他の部分も話し方を工夫してみます」とありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

#### 問題 2三

小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、□で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

	<正答率>		<無回答率>	
	1三	2三	1三	2三
本 校	41.3%	40.5%	19.8%	10.3%
埼玉県	52.1%	48.3%	15.0%	7.5%
全 国	51.8%	46.5%	16.2%	9.0%

### 【課題】

- ・無回答率が高い問題がある。
  - ・条件に合わせて、自分の考えを書く。
- ### 【課題の解決策】
- ・初発の感想や、課題作文等で、条件をよく読み、それに合わせて書けるように指導していく。
  - ・国語に対してもっと主体的に取り組めるように、言語活動の充実を図り、授業を展開していく。

## <数 学>

### 【領域別】

「データの活用」の領域では、全国・県の平均を上回ったものの、「数と式」「図形」は1~2%下回った。「関数」については7%程度下回った。

### 【問題（例）】

問題 **1** 42を素因数分解しなさい

正答  $2 \times 3 \times 7$

<正答率>

本 校 57.6%

埼玉県 49.1%

全 国 52.2%

基礎・基本の定着を目指して朝学習に取り組んでおり、授業内でもステップを踏んだ指導をしている。

学力の二極化も見られるため、授業の進め方の型を決め、ねらい・流れが明確にしている。

### 【問題（例）】

問題 **4**  $y$ が $x$ の一次関数である表している表から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

正答 ア  $x$  … -6 -4 -2 0 2 4 6 …  
 $y$  … -11 -7 -3 1 5 9 13 …

<正答率>

本 校 28.8%

埼玉県 37.0%

全 国 37.9%

埼玉県・全国と比較して10%程度正答率が低い結果となった。

変化の割合については、1ずつ増加する問題はできるが、 $x$ が2増加した時に $y$ が4ずつ増加することが理解できていなかったと思われる。

基礎・基本を押さえたのち、応用問題に取り組む時間を増やすことで克服していきたい。

## <理 科>

### 【領域別】

「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする領域において埼玉県・全国の平均をやや下回った。「地球」を柱とする領域では、7%程度下回った。

### 【問題（例）】

#### 問題 8 (2)

予想や仮説を立てた実験の結果が異なった場合、なぜかを考え、その可能性を指摘する。

予想と異なる結果が出る場合について考える場面

もし、【結果の予想】と異なり、操作Aも操作Bも行列をつくる結果になった場合は、どのように考えればよいですか。

私は、感覚による情報をもとにしていないと考えます。

私は、アリの種類を変えて同じ操作で確かめるとよいと考えます。

私は、操作Aで、**R** ことができなかったのではないかと考えます。

問題 **R** に入る言葉を書きなさい。

正答 においを消す

	<正答率>	<無回答率>
本 校	57.6%	10.4%
埼玉県	55.4%	14.4%
全 国	55.1%	14.9%

普段の授業から、実験の際、予想・仮説をもとに実験結果を考察する取組をしていることで、正答率が高かったと考えられる。

今後も、実験を行うことを目的とするのではなく、理科の見方・考え方を深める活動を取り入れていく。

### 【問題（例）】

#### 問題 2 (3)

データをもとに推論した考察の妥当性を判断する。

飛行機雲のようすを考察する場面

<10月1日 13時>

<10月15日 13時>

飛行機雲がすぐ消える

飛行機雲が長く残る

山本さん: 日によって、飛行機雲がすぐ消えたり、長く残ったりします。なぜだろう。

先生: 飛行機雲は、燃料の燃焼でできた水蒸気が凝結したものです。このことから何が関係していると考えますか。

山本さん: 飛行機雲の残り方は、湿度と関係していると考えます。

中村さん: 飛行機雲を撮影した日時の百葉箱の観測データを調べました。

百葉箱の観測データ			
日時	気温(℃)	湿度(%)	飛行機雲の残り方
10月 1日 13時	21.5	61	すぐ消えた
10月 15日 13時	20.3	61	長く残った

私は、このデータから、「湿度は関係していない」と考えます。

問題 中村さんの下線部の考えに対して、どのように判断することが最も適切ですか。

正答 エ 飛行機雲の高さの湿度を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない。

	<正答率>	<無回答率>
本 校	19.2%	0.0%
埼玉県	29.3%	0.2%
全 国	28.5%	0.3%

複数のデータをもとに各現象を関連付けて考える力が必要である。学習した内容をもとに考察を深める取り組みや、考察した内容を全体に発表する取り組みを入れていく。

## <質問紙調査から>

### 【(35)】

学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか。

	桶川東中	全国
(ほぼ毎日)	11.2%	4.7%
(週3回以上)	12.8%	10.3%
(週1回以上)	20.0%	20.3%

全国や埼玉県の利用率と比較して、東中では ICT 機器の利用頻度が高いことがわかる。「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対して、本校生徒は 90%以上の生徒が「役に立つ、どちらかといえば役に立つ」と答えている。このことから ICT 機器のニーズは高いことがわかる。

これからもタブレットを活用していくとともに、生徒の学習意欲を高めたり、学習効率を高めたりするために使用していく。

### 【(40)】

1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

	桶川東中	全国
(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)	64.8%	67.4%

この項目に関しては全国、埼玉県の数値よりも低い結果となりました。「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対しては、83.2%の生徒が肯定的な回答をしている。課題解決に向けた学びをしている意識が生徒自身にあるので、今後は教科横断的な学習を取り入れていき、「深い学び」につなげてまいります。

## <埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

### 1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

### 2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

### 3 調査実施日

令和4年5月11日（水）

### 4 調査の内容

#### （1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

#### （2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

## 本校の調査結果の概況

<教科に関する調査>        は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	13	66.2	61.7	13	59.1	55.8	12	66.9	65.2
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	58.7	59.3	6	66.2	58.5	7	68.7	60.8
話すこと・聞くこと・書くこと	5	58.2	53.8	4	55.9	56.5	4	49.2	49.9
読むこと	8	61.1	57.1	7	63.8	58.5	7	40.2	40.3
※学力の伸びた生徒の割合		<b>78.3</b>	↑↑↑↑		<b>77.8</b>	↑↑↑↑		<b>67.8</b>	↑↑↑

数学（内容は算数）	第1学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	12	61.5	60.8
図形	8	61.1	55.8
変化と関係	7	58.1	56.2
データの活用	5	58.9	55.4
※学力の伸びた生徒の割合		<b>78.3</b>	↑↑↑↑

数学	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	13	60.8	54.0	12	72.4	67.7
図形	6	54.8	47.9	8	50.5	51.9
関数	4	55.9	53.8	6	45.8	44.0
データの活用	7	70.2	55.6	6	59.1	55.8
※学力の伸びた生徒の割合		82.1	↑↑↑↑↑		71.1	↑↑↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	74.9	67.3	10	58.2	54.9
読むこと	18	64.0	60.6	18	63.2	62.8
書くこと	7	49.6	43.1	7	41.8	39.8
※学力の伸びた生徒の割合					87.6	↑↑↑↑↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、          は80%以上 (％)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7	96.1	96.3
	② 授業開始時刻	96.9	97.1	97.6
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.1	89.8	92.3
	④ 整理整頓	77.1	77.0	80.8
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	81.9	81.7	83.5
	⑥ 返事	88.0	86.6	88.3
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	91.2	90.5	92.2
	⑧ やさしい言葉づかい	89.3	88.1	88.7
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	91.9	91.2	92.5
	⑩ 話を聞き発表する	77.2	73.4	76.7
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	92.6	92.5	94.6
	⑫ 掃除・美化活動	85.8	84.3	85.8

# 本校の学力向上の取組

## 授業における取組

### 1 個別指導の徹底

- ☆ (1) チームティーチングや個別指導などきめ細やかな指導をしています。
- ☆ (2) 単元毎や授業毎に学習内容の振り返り活動を設定し、基礎基本の定着を図っています。
- (3) 評価と指導の一体化を図り、生徒一人一人の達成度に合わせた指導、助言をします。

### 2 言語活動の充実

- ☆ (1) 全ての教科において、少人数やペア、グループ、クラス全体といった様々な形態での話し合い活動を行い、意見交換する時間を確保し、伝える力・表現する力の育成に努めています。
- ☆ (2) 各教室にタイマーを設置し、授業の中で、生徒たちが、「考える」「考えを書く」「話し合う」「まとめる」「発表する」時間の可視化を図り、生徒の主体的ではじめある活動を推進しています。

### 3 学習に対する態度の育成

- (1) 学習意欲を高め、学び合う態度の育成のため、ICT端末や電子黒板などICT機器を活用した授業など、探究心を湧き立たせるような教材や指導を行っています。
- (2) 授業の展開の中に、意図的・計画的に言語活動を充実させる場面を設定し、生徒の思考力・判断力・表現力の高揚を図ります。

## 授業以外の取組

### 1 補充学習や朝の小テストの推進、よい良い学習環境づくり

- ☆ (1) 授業規律を明確化し、「授業の約束」「発言の仕方」を教員・生徒の共通の目標として日々取り組んでいます。
- ☆ (2) 定期テスト前に質問会や学習会を設けたり、長期休業中にも補習を実施したりして補充学習の充実を図ってまいります。
- (3) 毎週金曜日のチャレンジテストの取組を推進し、向学心、基礎基本の充実に努めてまいります。
- ☆ (4) 学校生活の様々な場面で意欲を高めたり、心豊かで自己有用感を持つ生徒の育成を目指し、生徒の作品の展示や各行事への取組を表す掲示物の充実を図り、より多くの生徒の成果・努力を表彰する教育活動を推進しています。
- ☆ (5) 朝読書を奨励し、本に親しみ、落ち着いた潤いある学校生活を始めるための時間を設定しています。
- ☆ (6) 生活ノートへの教師によるコメントを通じて適切な助言や励ましを行うことで、生徒の自尊感情の高揚に努めています。

### 2 家庭学習の習慣化

- (1) 家庭学習の推進のため、自主学習ノートを活用し、より良い習慣化を目指す指導を展開してまいります。
- (2) 新入生保護者会、各学年の保護者会、三者面談、二者面談において、説明とご協力の要請を図ります。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

# 本校の学力向上プラン

## 令和4年度 学力向上全体計画

福川市立福川東中学校



取組の観点	I 学習指導・評価方法の工夫	II 教育課程の工夫・発信	III 学習評価活動の工夫	IV 家庭・地域等との連携の工夫
取組の基本方針	基礎・基本の確実な定着を図り、それを活用する場を設定する。学習意欲の育成を図り、授業方法・形態を工夫する。	生徒の意欲を醸成しながら、系統的な学習計画の作成や教材の工夫・開発・改善を行う。	生徒のよい点や達成状況を積極的に評価することにより、一人一人の意欲を伸ばすための評価方法を工夫して実施する。	基本的な学習態度や学習習慣を身に付けさせることと、社会性の育成や指導者としての役割を担う。
課題解決のための具体的な取組(場と方法)	◎ 「授業の前提」による学習意欲の醸成 ◎ 生徒の意欲や単元の特性に応じた授業の工夫 ◎ 少人数、少人数、少人数による少人数授業、小集団学習の活用 ◎ 基礎的・本質的・本来的な内容の徹底 ◎ 授業の質を高め、思考・判断・表現力の育成を図る ◎ 授業の質を高め、思考・判断・表現力の育成を図る	◎ 年間学習計画の実施・工夫・見直しと評価 ◎ 教材・教員の準備・備忘 ◎ 言語活動及び体験活動の充実 ◎ 情報の活用や授業モデルの開発の工夫	◎ 年間学習計画に基づいた評価活動の形成・見直し ◎ 学習意欲の醸成とシラバス等の作成 ◎ 授業における生徒の自己評価や相互評価を促し、自己評価や相互評価の向上 ◎ 基礎的・本質的・本来的な内容の徹底 ◎ 基礎的・本質的・本来的な内容の徹底	◎ 家庭への育児と評定の連携 ◎ 適切な評価の仕方(学習・判断・継続性)の工夫と ◎ 家庭学習の習慣化 ◎ 家庭学習の習慣化 ◎ P.T.Aと協力してのあいさつ活動の充実
関係する部活動、行事、組織等	◎ 総務課 ◎ 教育支援活動部での公開授業 ◎ 学力向上推進委員会	◎ 総務課 ◎ 教務課 ◎ 教育研究推進委員会 ◎ 教育課程開発委員会	◎ シラバス ◎ 定期テスト管理 ◎ 通知表	◎ 学校・学年により ◎ 学習会、授業参観、保護者会 ◎ P.T.A総会

## 保護者・地域の皆様へ

本校では、令和元年度から4か年にわたり、『「できた、わかった、楽しい」を味わわせる学習指導の質的改善～主体的・対話的で深い学びを通して～』を主題として、研究を深めてまいりました。各教科で「主体的で深い学び」を実現するために「見通し」と「振り返り」を大事にした授業を展開してきました。

成果として、埼玉県学力・学習状況調査において、令和3年度と4年度を比較すると、2学年は国語において8-Cから8-Aへ2レベル、数学において7-Bから8-Aへ4レベルの向上が見られ、英語では10-Cと県平均よりも2レベル高い結果でした。3学年は国語において8-Aから9-Cへ1レベル、数学において8-Cか8-Aへ2レベル、英語は9-Cから10-Bへ4レベルの向上が見られました。

教員が授業を構想する段階で、生徒にゴールを意識させることが「わかる」授業につながり、ステップを踏んだ課題を設定することで「できた」感覚を持たせることになったと考えております。それが、学習に対して「楽しい」と感じ、主体的な学びへつながりました。

今後も、すべての教育活動を通じて生徒の成長をサポートし、学力、人間性の向上に努めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても本校へのご支援、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

